

『神との友情』 ヨハネの福音書 15章13～17節 2017.1.22(聖日礼拝説教より)

『わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。』 ヨハネの福音書 15:15

◆聖書を理屈ではなく実感する！これが今年のテーマ！ヨハネ福音書の目的は、ヨハネ 20:31「これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである」にある！神であるイエスとつながり、いのちを得て、喜びに満ちて愛の人になりたい！「いのち」とは「(神との) 関係」のこと。イエス様は私たちを友と呼ばれる。聖書には神の友となった者たちが大勢登場する！

①彼らはイエスと一緒にいた(ヨハネ 1:35～)…アンデレとヨハネは『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』と聞きイエスについて行くと、イエスは『来なさい。そうすればわかります(39)』と誘われた。このやりとりに「命」とつながる大切な秘密がある！彼らはイエスに従い、一緒に泊まり交わり、その秘密を知る！★あなたはイエス様と出会い、日々御声を聞いているだろうか？それとも何の実感もないのか？水野源三さんは『キリストにお会いしてから心が変わった』と詠い、星野富弘さんは病床で「わたしのもとに来なさい(マタイ 11:28)」と聴き、あのキリストが、絶望していた自分を抱きしめ、全ての悲しみを負ってくださったと証！二千年も前の方の御声をどうやって聴き、出会い、いのちに触れた？「言葉は人となって私たちの間に住まわれた！この言葉に命があった！言葉は神であった！「その名はイエス」(ヨハネ 1:1～14)。

②一緒にいて知った秘密(1:41～42)…翌日アンデレは兄のシモンを見つけ『メシアに会った(41)』と言い、イエスの許に連れて行く。まるで友達でも紹介するように！イエスはシモンに『あなたは「ケバ(岩)」と呼ばれるようになりますよ！』と愛称で呼び、すぐ親密に！◆「来からわかるよ」との招きを聴き、親しく交わり、『イエスと一緒にいる』時、私たちは、神の心の内(愛と慰め)を知り「命を得る」！『わたしは、あなたがたを友と呼びました(15)』。主と一緒に過ごす時間を持つ方法は3つ。①デポジション(どう考えても、聖書を読まずに、御声を聴き、御心に触れ、友情を育むことはできない)。②礼拝(共に御言葉を聞き、祈り、讃美する！)③クリスチャンと交わる(互いに祈り、機会あれば声かけし合う)。

★今週、御声を聴き、イエス様と一緒に時間を過ごすために何ができるだろう？まず主の友情を実感し、誰かと真の友情を育むために出来ることは？